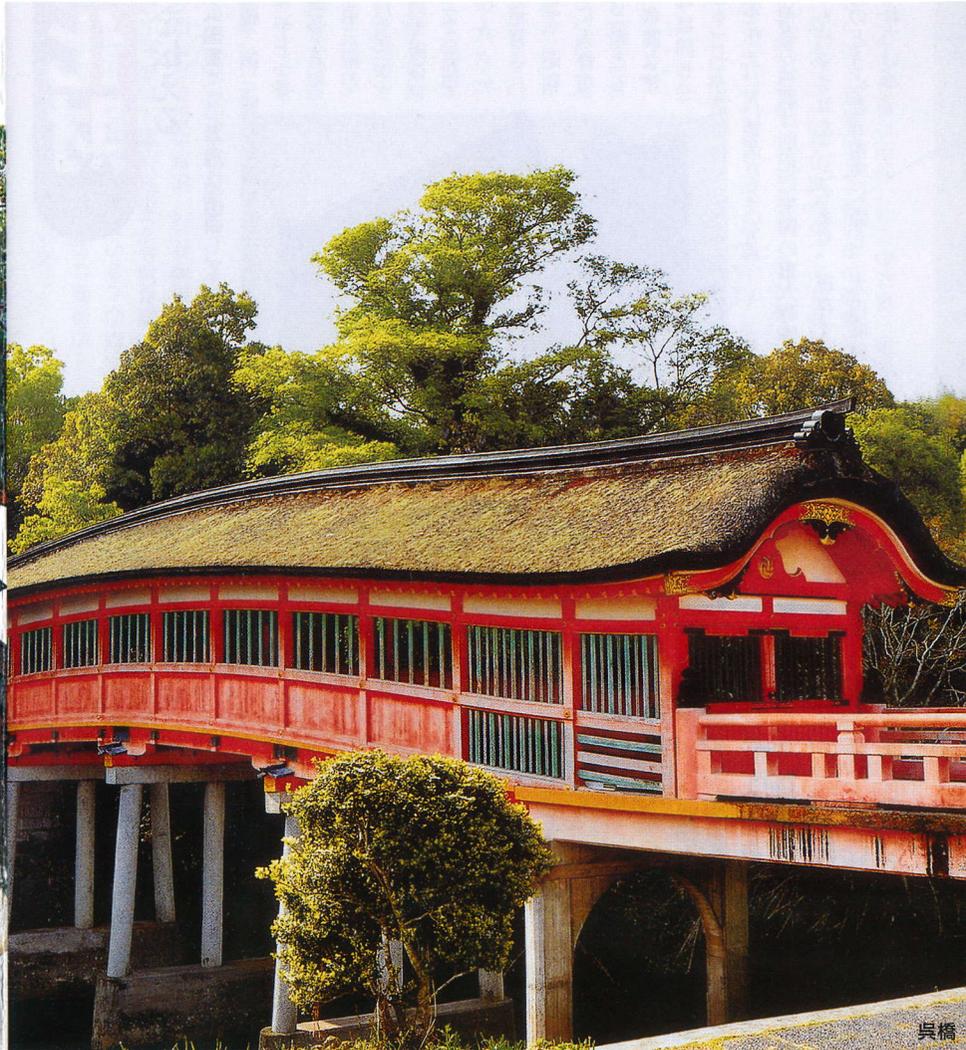


# 宇佐神宮



宇佐神宮本殿（国宝）



兵橋

心のふるさと宇佐参り

宇佐神宮庁 〒872-0102 宇佐市南宇佐 2859  
TEL0978-37-0001 FAX0978-37-2748  
<http://www.usajinguu.com>

# 祭祀と特殊神事

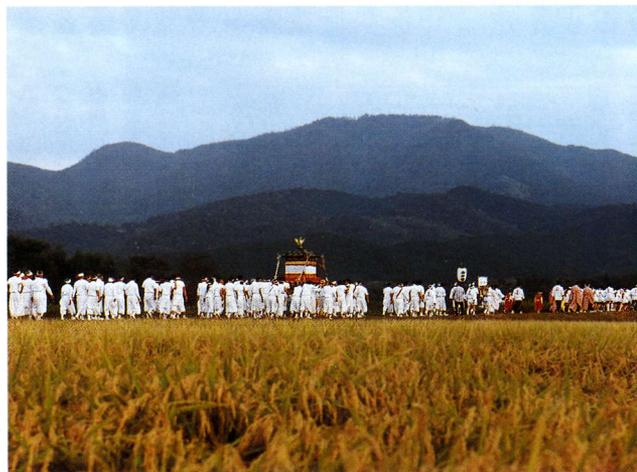
大祭	鎮疫祭	二月十三日
例祭	御神幸祭	三月十八日
仲秋祭	新嘗祭	七月二十七日以降の 最初の金・土日曜日 十月体育の日、前日、 前々日の三日間 十一月二十三日
中祭	歳旦祭	一月一日
	元始祭	一月三日
	紀元祭	二月十一日
	春祭(致祭)	旧二月初卯の日
	冬祭(致祭)	旧十一月初卯の日
小祭	式日祭	毎月一日
	月次祭	毎月十五日
	大元神社式日祭	毎月適日
	新年祭	一月二日
	御誕辰祭	一月六日
	御正忌祭	四月一日
	桜花祭	四月十日
	大元神社春祭	四月二十九日
	御田植祭	六月二十六日
	風除祭・虫振祭	八月七日

風除報賽祭  
神能  
除夜祭  
恒例式  
大祓式

鎮疫祭  
疫病災禍を  
祓い鎮める祭  
りで、宮司以  
下神職が捧げ  
る五色の御幣  
を従者が鳥居  
の上へ投げ越  
す、勇壮な幣  
越神事が行わ  
れ、蘭陵王が  
舞われる。

例祭  
いわゆる宇  
佐祭といわれ  
るもので、皇  
室より幣帛を  
賜り齋行され  
る重儀。

十月二十日  
十月二十一日  
十二月三十一日  
六月三十日  
十二月三十一日



春祭・冬祭(致祭) 初卯の日の祭り  
で、祭りの前後十二日間にわたって、  
宮司以下神職は齋戒を行う。西の日か  
ら卯の日まで毎日祭事が行われる。

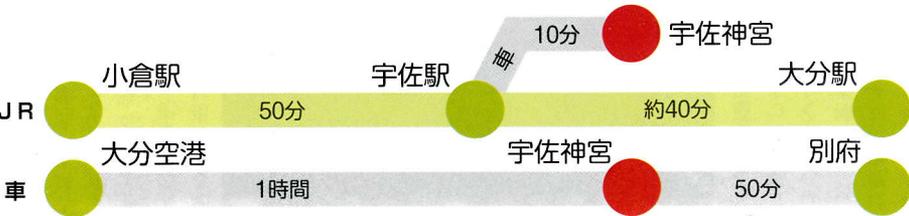
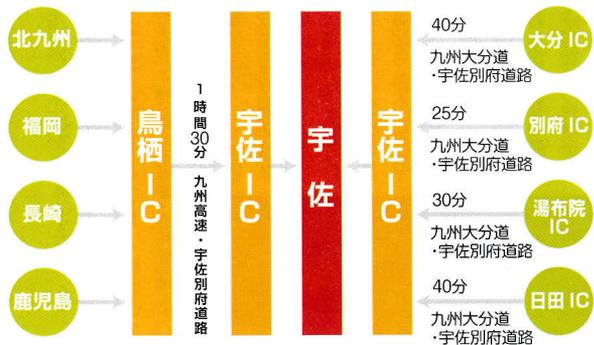
仲秋祭  
昔は放生会といった。養老年間の隼  
人の叛乱を鎮めら  
れた八幡大神の御  
神意で、隼人たち  
の霊を慰め更生さ  
せるため和間の浜  
で蛭貝を隼人の霊  
として放生するの  
が仲秋祭である。

御神幸祭  
昔は御祓会とい  
って、夏越し神事  
のことである。出  
御、還御の行列は  
美しい前陣や後陣  
の執物所役のお供、  
宮司は古来より輿  
に乗ってお供をす  
る定めで、華麗・  
勇壮な夏祭りが盛  
大に行われる。

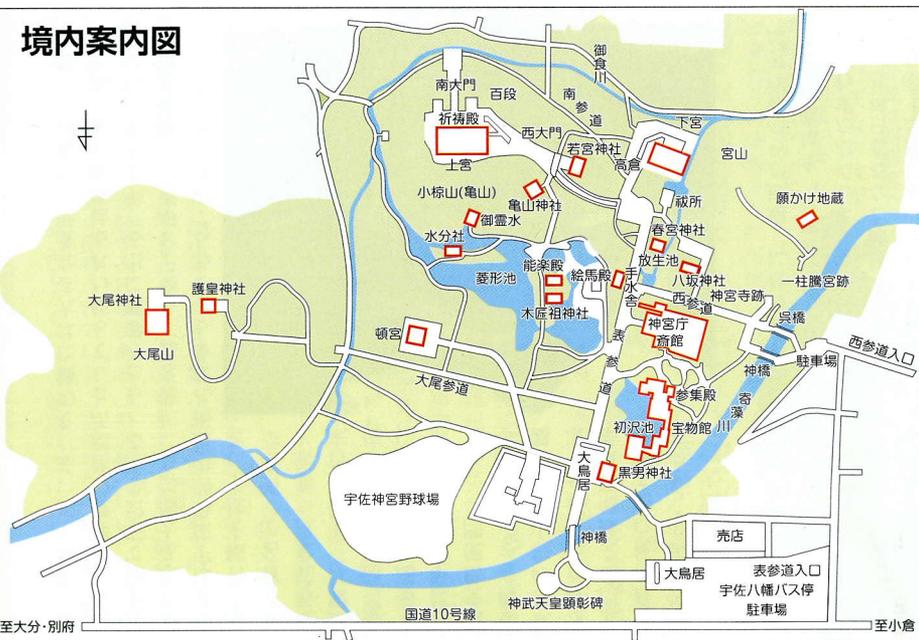
## 宇佐神宮参拝交通案内

小倉から特急で約五十分。大分から特  
急で約四十分。「宇佐駅」下車。  
宇佐駅から車で約十分。宇佐八幡バス  
停から徒歩で約十分。大分空港から車  
で約一時間。  
※宝物館は毎週火曜日が休館(祭日の  
時は翌日休館)

## 車をご利用の場合



## 境内案内図



# 由緒

古の憧憬と神代への誘い

## 御祭神

- 一之御殿 八幡大神 (応神天皇)
- 二之御殿 比売大神 (多岐津姫命、市杵嶋姫命、多紀理姫命)
- 三之御殿 神功皇后 (息長帯姫命)

## 由緒

宇佐神宮は全国八幡社の総本宮である。

八幡さまとは応神天皇の御神霊で欽明天皇の三十二年(五七二)に初めてこの宇佐の地に御示現になり「われは菅田天皇八幡八幡唐呂なり。我名をば護国靈験威力神通大自在王菩薩と申す」と告げられた。

そして、大陸の文化や産物を輸入して新しい国づくりを進められ、英明にして神徳も高く、皇室では伊勢につぐ御先祖の神社として崇敬され、特に勅使の和氣清磨に国体を正す神教を授けたことで有名である。

もとより、この宇佐は神代に比売大神が天降られて早くから



勅使門

開けた処で、宇佐の国造はこの神を祀った。また神武天皇の皇軍を迎えた聖地でもあったので、八幡さま比売大神、及び神功皇后をまつる宇佐神宮が奈良朝の神龜年間に創立せられたのも当然のことである。

比売大神は後に筑前の宗像大社や、安芸の嚴島神社にまつられ福徳愛敬、交通安全等の守護神として崇められ、また神功皇后は母神として宇佐に祀られ、神人交歓、安産、教育等の神徳も高くあらわれた。

この三殿一徳の八幡宮の御神威は皇室だけでなく一般の人々にも鎮守の神として信仰された。

清和天皇のとき僧行教により、貞観二年(八六〇)に平安京の鎮護として宇佐の御分霊を祀りて石清水八幡宮を創立し、源頼朝は鎌倉幕府の鎮守として鶴岡八幡宮をたてるといふように全国に四万社あまりの御分社が次々にまつられた。

また聖武天皇の勅願で、神宮寺彌勒寺を建てられたことにより、国東半島を中心とした六郷満山の仏教化発祥に多大な影響を与えた。

そもそも八幡信仰は、応神天皇の聖徳をたたえただけでなく、海外の文化や信仰と昔からの神道と仏教を融合したもので、神事、祭会や建造物、宝物にそのうわしい姿を遺している。本殿は国宝で八幡造りであるほか、その豪華な檜皮葺丹塗の各社殿は千古斧を入れない深緑の柱に映えている。

# 文化財

時の流れを伝える

## 宇佐神宮本殿(国宝)

本殿は南面していて、向って左から

第一殿、第二殿、第三殿の三棟が並んでいる。創紀は、第一

殿が神龜二年(七二五年)、第二殿は天平五年(七三三年)、第三殿が

弘仁十四年(八二三年)である。現在の本殿は、

安政二年から文久元年(二八五五〜一八六一

年)にかけて造営され

たときのままで、昭和

三十八、九年に大修復が行われた。三殿とも

白壁朱漆柱の華麗な建物で規模はほぼ同じ、

切妻造の屋根を二つが造り合ひになっている。古い神社建築の一つの形式を伝え、八幡造りという。

**神輿** 宇佐神宮の神輿は創祀以来国の重大時等に、奈良や大

限・日向までも行幸されたこともあり、現存する神輿は室町將軍足利義持のときの社寺復興に際し、大内盛見が寄進したものと伝えられている。



## 銅鐘(国指定重文)

この鐘は朝鮮鐘で、銅部に天女の像が陽刻されている。朝鮮で造られたものが彌勒寺に寄進されたもの。

**白鞘入剣(国指定重文)** 長大な堂々とした剣で長さ三尺一寸、

両鑢造り。銘によると後醍醐天皇の皇子である懐良親王が、征西將軍として鎮西を平定されたとき、武運長久を祈願して御奉納になった入剣である。また社僧の神息の刀も名刀である。



## 国宝 孔雀文馨

## 宇佐宮造営指図三幅(国指定重文)

上宮 仮殿地判指図は鎌倉時代の文治年間(一一八五〜九〇)のもので現存するわが国最古の建築指図である。室町時代の彌勒寺造営指図、上宮造営指図が指定され、又応永の古図(県指定)と共に当事の様子が良く画かれている。

## 古文書(県有形文化財)

八幡宇佐宮託宣集 十六卷、到津文書四六三通、永弘文書三、三四九通、小山田文書五四六通など、当神

宮に関係する古文書類が多数保管されている。

## 能衣裳と能面

十月二十一日、風除報賽祭の二日目に数百年の昔から能を神前に奉納する行事がある。御神能といい、このときの能面や衣裳が多く保存されている。現存のものは、細川忠興公が豊前領主のころ寄進したもので、能面は特に秀れた作。



# 宇佐神宮参道

## イチイガシの森に囲まれた丹塗りの神殿

寄藻川にかかる朱塗りの欄干の橋を渡って参道に入ると、まず黒男神社が見えてくる。景行天皇から仁徳天皇までの五代の天皇に二四〇余年忠誠をつくして仕えたと伝えられる武内宿禰をお祀りする社で、長寿、忠誠、奉仕など高い御神徳を授けられる。大鳥居をくぐると右手に「日本三沢の池」の一つとして知られる初沢の池があり、夏には華麗な薄紅色の蓮の花（原始蓮）が咲き乱れる。その横に宝物館がたつ。ほどなく神宮庁に出、手水舎、応神天皇の御子神を祀る春宮神社、その裏手に須佐之男命を祀る八坂神社があり、西参道に通じる呉橋に至る。屋根のあるこの呉橋は、鎌倉時代以前からあり、昔呉の国の人が架けたともいわれる。



亀山

うっそうと繁るイチイガシの杜。本宮に通じる石段の上にとときわ鮮やかに大鳥居が建ち、参拝者の目を奪う。大鳥居下の参道を右に行くと下宮に出る。御祭神は上宮と同じで、嵯峨天皇の弘仁年間に勅願によって造宮使を御差遣、上宮の御分神を御鎮祭になったもので、農業と関係が深い。砂利のしかれた参道をしばらく歩くと、鬼の百段で知られる南大門があらわれる。きっちり百段の石段を登りきると、国宝の宇佐神宮本宮が静かに鎮座されている。勅使門を中心に回廊が巡り、その内側に御本殿がある。左から一の御殿、二の御殿、三の御殿と並ぶ八幡造りの均勢のとれた姿は昔むす檜皮葺の屋根、丹塗りの各社殿、純白の妙とあいまって、



下宮

八幡総本宮にふさわしい威容を示されている。また、祀られる八幡大神、比売大神、神功皇后の脇殿となる春日神社、北辰神社、住吉神社も鮮やかな中にもつつましくたたく。春は陽光に、夏は蝉しぐれに、また秋は紅葉に、冬は雪化粧に、四季を通じて心を豊かに導くこの杜に、遠近からの参拝者は後を絶たない。

本宮から西大門、宇佐鳥居をくぐって若宮神社に出る。西大門は文祿の頃改築されたといわれ、以来この桃山風の華麗な構造で、国宝の本殿や勅使門などとともに宇佐神宮を象徴する建物となっている。西大門前の宇佐鳥居は、宇佐宮古来の形式を持つ鳥居として有名で、額束がなく台輪を柱上に置



西大門

か姿は宇佐鳥居の規格となるものである。応神天皇の若宮であられる大鶴嶋命（仁徳天皇）外皇子を奉斎している若宮神社を経て石段を下るともとの参道に出る。手水舎から右に折れると参拝者の休憩所としても使われる絵馬殿が桜、藤に囲まれて建っている。その横には大きな菱形池があり、八幡大



宝物館

神が御現われになった霊池としても有名。藻を浮かべる水面には能舞台がその優雅な姿を映している。亀山の北にある頓宮は、夏の神幸祭のときの御旅所にあたる社殿である。なおしばらく歩くと、護皇神社と和氣清磨公の碑と大尾神社が建つ大尾山につく。護皇神社は、法皇の位から帝位をも奪われんとする弓削道鏡の野望を、八幡神の「無道の者は早く掃除せよ」という御神勅を天皇に

奏上した勅使の和氣清磨公を御祭神として祀っている。大尾神社はその和氣清磨公が国体擁護の御神教を授かった霊地として知られている。その大尾山に立つとき古代からの営々とした信仰への熱い息吹に思いをよせないではいられない。これらの神社のほか菟狹津彦命を祀る宇佐祖神社、大神比義翁を祀る神社、大限日向国社の隼人、水分神社がこの神域の杜にたたずむ。また、国東を中心とした六郷満山の仏教文化の隆盛を誇った神宮寺彌勒寺跡も、西参道一帯にのこり、歴史の重さを今に伝えている。